

はじめに

「発達障害をかかりつけ医のものにしよう！」が本書のコンセプトです。

発達障害が社会に広く認知されるにつれて、発達が気になる子どもたちは早期から医療を受診するようになりました。今では、「気になる子ども＝発達障害かもしれない子ども」が5%以上存在すること、医療的介入により人生の質が改善することがわかっています。子どもの発達に関する医療ニーズは今後も増えていくでしょう。

しかし、発達障害を診る医師は多くありません。そのため数少ない専門医／専門機関に受診が集中し、初診まで6ヶ月かかったり、自宅から数時間かかる遠方まで通わざるを得ない子どももいます。家から近く、気心のしたかかかりつけ医に発達の相談ができたらどんなに安心でしょうか。2015年にDartmouth大学のProf.Donnellyは「発達障害は、まずかかりつけ医が対応し、難しい子どもを専門医に紹介する疾患になりつつある」と話してくれました。今、日本でもその動きが本格化しています。発達障害は、かかりつけ医が外来で診る Common Disease（ありふれた疾患）になっていくと考えられます。

とは言うものの、発達障害診療には独特の難しさがあります。筆者は、2009年から小児科専攻医や家庭医診療科の医師と一緒に発達障害を診療してきましたが、勉強熱心な彼らも最初は発達障害診療に戸惑っていました。

そもそも発達障害が疾患なのか、人類の多様性なのかという議論もあります。実際の診療では「子どもの人生を扱う」側面が強く、普段の「病気を治す」治療のように単純に割り切れない場面にも遭遇します。同じ診断でも一人一人の特性や環境に合わせて介入を調整しなければいけません。薬物だけでは問題は解決しませんし、学校や地域の他職種と連携が必要です。専門医／専門機関への紹介も決まった基準はありません。こうした「いつもの診療とは違う」感覚は、専攻医だけでなくすべての医師が感じることでしょう。

発達障害がCommon Diseaseになったとしても、かかりつけ医が発達障害をどこまで、どのように診るのか、課題は山積みです。

本書は、こうした疑問に応えることを目指しています。発達障害を専門としない医師や医療スタッフに向けて解説しましたが、学校の先生など医療と連携する職種、あるいは医療に発達の相談をしようとしている家族にも読んでもらいたいと思います。

第1章では、「こんな相談をされたらどうする？」と題して12のよくある症候につ

いて、評価方法と鑑別疾患、初期対応を解説しました。第2章「これだけは知っておこう」では、自閉スペクトラム症（ASD）、注意欠如・多動性障害（ADHD）、知的能力障害（ID）の基礎知識と検査・診断・薬物を含めた具体的な治療介入の方法と原則を記載しました。また、第1章・第2章では専門医紹介の目安を明示しています。

第3章では効率的な情報収集と子どものアセスメントを紹介します。発達障害診療は、つい焦点がぼやけてしまいがちですが、自分なりの発達障害診療の「型」を作る診療がスムーズになります。「型」の一例として参考になれば幸いです。

第4章は、発達障害診療に欠かせない地域連携を取り上げました。ソーシャルワーカー、学校の先生、家族会、外来看護師など連携のパートナーから意見をいただき、実りある連携のコツを紹介します。

第5章は子どもの成長を扱います。親離れ／子離れ、子ども本人への告知、進路相談、成人診療科へのトランジションについて考えましょう。

わかりやすさを追求するため、すべてのテーマでCaseを提示しました。そのため、どうしても説明表現や治療方針に筆者の考え方や診療スタイルが反映されています。中には首をかしげたくなる箇所があるかもしれません、人生そのものを扱うという発達障害診療の性質上、様々な診療スタイルがあり、本書はその一例を紹介したものとご理解ください。

本書では、かかりつけ医の範囲を超える内容は思い切って割愛しています。例えば、DSM-5の診断基準を満たす「神経発達症（Neurodevelopmental Disorder）」と、その周辺にいる「発達特性を持つ子ども」を合わせて「発達障害」として扱っています。かかりつけ医の外来では、診断よりも子どもと家族の困難や支援の必要性に応じて対応することが現実的だからです。

また、DSM-5の神経発達症のうち自閉スペクトラム症（ASD）、注意欠如・多動性障害（ADHD）、知的能力障害（ID）のみを扱っています。かかりつけ医の外来では実施困難な網羅的な評価、専門的な療育や学習指導、治療プログラムも除外したことをご了承ください。

本書が発達障害診療のきっかけになり、「発達障害を、この町で、いつもの先生に診てほしい」という子どもと家族の声に応えられるかかりつけ医が増えてくれたら望外の喜びです。

2021年7月

市河茂樹